

自己評価				
学校運営計画(4月)			評価(総合)	
学校運営方針	地域社会が有する諸課題や魅力に着目した実践的な学びを通して、地域を大切に、地域に貢献できる人材を育成する。さらに各学科で身に付けた専門的知識・技能を生かした第一希望進路を実現する。			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標		
【成果】 ① 授業における一人一台端末等のICTの活用が進展し、授業改善につながった。 ② 教育相談の充実と職員の情報共有により、中途退学者・転学者が減少した。 ③ 各学科の特性を生かした教育内容を充実させ、教科横断的な取組を実施できた。 ④ 広報室の設置及びSNS等を活用した広報活動により、学校の魅力を継続して発信できた。 ⑤ 特色化選抜等の導入により、志願倍率及び定員充足率を向上させることができた。 【課題】 ① 学び直しによる基礎学力の定着 ② ICTの活用による授業改善 ③ 職員研修の充実による教員の資質能力の向上 ④ 「SEL-8C」等とおした発達支持的生徒指導の充実 ⑤ SNS等を活用した広報活動及び志願倍率向上を目指した取組の充実	1 「確かな学力」の育成	(1) 総合型高校の特性を生かしたカリキュラムマネジメントによる、資格取得実績の向上 (2) ガイダンス機能と3年間を見通したキャリア教育の充実による生徒の第1希望進路の実現 (3) 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための「学び直し」の指導及び学力診断テストなど客観的データの分析に基づいた基礎学力の向上		
	2 「基本的な生活習慣」の定着と「健やかな体」の育成	(1) 心身ともに健康な身体と規範意識の育成 (2) 教育活動全体を通じた、社会を意識したコミュニケーション能力の育成 (3) 保護者との緊密な連携による出席状況の改善		
	3 「豊かな心」の涵養	(1) 教育活動全体を通じた道徳教育の推進による人権意識の定着といじめを許さない雰囲気醸成 (2) 「銀ほめ福岡メソッド」に沿った発達支持的生徒指導の充実による自己肯定感の育成 (3) 地域との連携強化による地域を愛し地域に貢献できる人材の育成		
	4 主体的・対話的で深い学びの実践	(1) ICTの活用をはじめとする研究授業及び職員研修の充実による授業改善 (2) 授業のユニバーサルデザイン化及びICTを活用した「個別最適な学び」の実践 (3) 主体的に学ぶ生徒を育成するための観点別評価方法の工夫・改善		
	5 社会に開かれた教育課程の実現	(1) 地元企業や大学等との連携による効果的かつ高度な専門教育の充実と協働 (2) 各学科の専門性を生かした教科等横断的な視点に立った取組の創造と魅力発信 (3) ドローンの利活用推進及びふるさと納税返礼品事業等による地域と連携した教育活動の更なる充実		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	生徒個々の能力の伸長を促す学習評価の実施	・本年度1・2学年に観点別評価が導入されるにあたり、観点別評価と評定の算出方法を再確認する。また、評価によって生徒の学力向上を促すためにどのような工夫ができるか協議を行い、実践例の共有を図る。	B	・観点別評価の仕方について職員の一定の理解を得ることができた。評価により生徒の学力向上を促す工夫については各教科で協議することができたが、全体で協議する場を設けることが今後の課題である。
	校務支援システムの円滑な運用	・昨年度、校務支援システムにおいて観点別評価が導入されたことにより生じたシステム上の問題点を改善するとともに、出力結果のエラーチェック体制を整える。	A	・研修や補助資料の配付により、システムへ入力する際のヒューマンエラーの減少に取り組み、一定の成果を上げた。教務部のエラーチェックの負担を減らしていくことが今後の課題である。
	一人一台タブレット端末の活用促進	・一人一台タブレット端末の活用を促進するために、授業や特別活動における校内での活用例を全体で共有する。	B	・生徒対象のアンケートをタブレット端末を用いて実施したことにより、端末活用の一例を全体に示すことができた。来年度は各教科の授業における端末活用の実践例を全体で共有することを目指す。
	教職員のニーズに応じた効果的な研修の実施	・各分掌、教科向けにアンケートを実施しニーズの把握に努めるとともに、内容や実施形態を工夫しより効果的な研修を目指す。	B	・来年度以降、研修日程を予め年間行事予定に日程を組み込んでおくとともに、内容や実施形態についても改善していきたい。
		・教育の情報化推進委員と協力しICTの活用研修を実施し、「個別最適な学び」の実践の一助とする。	A	・ICT活用の目的やレベルに応じた研修となるよう、個々で視聴可能な動画教材等も活用していきたい。
	図書館の利活用の促進	・新入生オリエンテーション、図書館を活用した授業の実施に加え、新刊案内や図書以外のリソース活用を進める。	A	・新入生オリエンテーションは図書館利用のきっかけになっており、今後も続ける。来年度以降も展示や企画を工夫し来館者の増加を目指す。
	他分掌及び職員間の連携強化 式典・諸行事等の円滑な運営	・分掌間、職員間の連携強化に向けて、庶務・広報課内の連携を密に行い、業務担当の細分化、適正化を図る。	B	・20周年記念行事に向け、分掌間・職員間の連携強化に努める。
	PTA、同窓会、なごみ会、地域・各団体との連携強化による学校活性化	・PTA、同窓会、なごみ会と連携し本校教育活動に関する情報を発信する。4学科の連携による地域貢献を通じて、本校の情報発信を積極的に行う。地域、各団体との連携強化に努める。	B	・PTA・同窓会・なごみ会との連携を強化する。地域貢献を通じて、本校の情報を発信していく。
広報活動の充実発展	・インスタグラム・HPの随時更新を行う。小学生に向けた情報発信を工夫する。現状を分析し広報戦略を企画立案する。keisenまちプラザを活用し、本校の教育活動の情報を発信の充実を図る。	A	・新HPへの移行作業を円滑に行うとともに、組織的運用を図る。 ・各科の広報データをとりまとめ活用する。また、校内外のイベントに参加し広報活動を行う。	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
B	A: 適切である B: 概ね適切である C: やや不適切である D: 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
B	学校関係者評価委員会に参加し、観点別評価について知ることができ、大変勉強になった。 ICT活用が充実している。一人一台タブレット端末の更なる活用の促進を期待する。 コロナ禍のために中断していた地域連携活動が復活した。今後も地域連携を充実させ、学校のPRを行ってほしい。 学校HPの月別行事予定をできる限り早く更新していただくと助かる。 桂川町図書館では電子図書館を導入している。嘉穂総合高校の生徒の皆さんにも活用していただきたい。

生徒指導部	規範意識とコミュニケーション能力の育成	・規範意識育成学習において、学期に1回以上、外部から講師を招聘し、社会的自立ができるよう内容の充実を図る。	A	A	・次年度も外部講師を招聘し、生徒の実態や課題に合った規範意識育成学習を実施する。生徒による謝辞、感想文等を通して振り返りを行う。	
		・教務部や進路指導部と連携し、SEL-8Cを年間計画に導入し、生徒の自己有用感や自尊感情を向上させる。	B		・他の分掌や学年と連携し、生徒の実態や発達段階に合わせた指導計画を検討する。	
		・学校行事等に、生徒が主体的に参画できるよう計画し、一体感・達成感が味わうことができるよう企画する。	A		生徒が学校行事に主体的に参画できるよう、企画の時間を充実させる。そのためにも早い段階から学校行事の計画を立てる。	
	交通事故防止と通学マナーの向上	・条例に従い、自転車通学者の任意保険加入を徹底させるとともに、定期的に自転車点検を行い、交通安全意識の向上に努める。	A		・自転車通学者の任意保険加入徹底、自転車点検は継続して行う。2重ロックについても継続して指導する。	
		・交通安全指導と交通安全教室を行い、自転車ヘルメット着用努力義務等のアナウンスを通して、交通安全意識の向上に努める。	B		・交通安全指導、交通安全教室を継続して行い、交通安全意識の向上に努める	
		・定期的に通学指導を、定期的に公共交通機関の乗車マナー指導を行い、交通事故等0を目指す。	B		・定期的な通学指導、乗車マナー指導を実施する。	
	自主活動の推進	・生徒会会議を定例化し、校則検討等の新しい活動の実施と充実を図る。	A		A	・生徒が学校行事に主体的に参加し、よりよくしていくための意見を交わす場として定期的に生徒会会議を行う。
		・学校行事を刷新し、安全性を重視した計画を行い、安心・安全に基づいて生徒が積極的に運営できるように努める。	A			
		・生徒会による地域貢献や校外行事への参加をとおして、学び、考え、主体的に判断し行動できる「生きる力」を育成するとともに、リーダー育成を行い学校の活性化に努める。	A			
	教育相談の充実	・授業規律の支援や問題行動における教育相談の充実を図る。	A		・悩みを抱える生徒とSC,SSWをつなげ、気持ちの安定を図ることができた。	
		・心身の健康や特別支援教育推進のための教育相談の充実を図る。	B		・作成した個別の支援計画の有効活用を検討する必要がある。	
		・SC、SSW、訪問相談員と連携し、教育相談を通じて、緊急対応を含め、迅速かつ計画的に生徒の情緒の安定と中途退学防止に繋がる支援を行う。	B		・SC,SSW,訪問相談員から担任の先生へのコンサルテーションを充実させることができた。	
・生徒指導全般における年1回の職員研修を実施する。		A	・通級指導、特別支援教育に関する研修を行い、教職員の理解を深めることができた。次年度は開催時期を早めたい。			
学習環境の整備	・清掃区域において全員で清掃に取り組むよう指導する。	B	B	・来年度は3学年とも4クラスとなるので、清掃区域、監督割の見直しが必要となる ・分別やリサイクル活動にも目を向け、本校でもできるSDGsへの取り組みを行いたい。		
	・リサイクル活動に積極的に取り組み、ゴミの分別を強化する。	B				
	・美化委員会を中心とした年2回の美化コンクールと月1回の校外清掃を行い、全校生徒の美化意識の向上に努める。美化活動を通して公共物を大切にすることを養う。	A				
ヘルスプロモーションセンターとしての保健室経営	・新しい生活様式を習慣とする中で、生徒自身が健康に関する正しい情報をとらえ、自身の健康を身に付ける能力を育てる。定期健康診断の実施とその結果を生徒自身の学校生活と健康生活に役立つよう指導を行う。	A	B	・学校行事を行う際は、引き続き安全面、衛生面に配慮した計画や保健指導が必要である。 ・適切な保健室利用のため、「保健室利用カード」を用いた生徒への指導を行う。		
	・保健室利用者の個別の保健指導と学校生活適応のための支援を行う。生徒保健委員会の活性化により、全校生徒の安全や健康に対する実践力の向上を図る。	B				

B	校則の改定が行われた。校則に沿って、教職員の統一した指導が必要である。
	校則の改定に伴い、携帯電話の取り扱いに関する規定が変わった。様々な問題への指導をお願いしたい。特に、SNSに関する問題については指導を望む。
	生徒会を中心に生徒の自主性を重視した教育活動が行われている。
	自転車通学生のマナーがよくなっている。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
進路指導	第1希望進路の実現	・生徒個々の進路希望を把握し、企業等の募集状況等を確認しながら、時期に応じた取り組みを計画、実施する。進路実現に必要な情報を発信し、生徒・保護者の進路意識の高揚を図る。ハローワーク等の外部関係機関や大学・専門学校等と連携しながら進路実現100%を目指す。	B		・学年との連携を強め生徒の状況を把握するとともに、学年と協力して進路実現100%を目指す。 ・進学希望者に対しての資料をさらに充実させる。
	組織的・系統的なキャリア教育の推進と生徒一人一人の将来設計の構築	・自分の将来についてよく考え、意欲的な生き方ができるような人生設計を計画させる。さらに、それを達成するために努力する姿勢と、その進路目標を実現するための「確かな学力」を身に付けさせる。 ・進路HRを充実させ、個々の生徒の適性に応じた進路指導の充実を図るとともに、生徒・保護者対象の講演会や進路説明会等を開催し、進路意識の向上と適切な進路情報の提供を行う。 ・「キャリア・パスポート」を効果的に利用するなど、各学年の状況に合わせて最適なキャリア教育を行うことにより、3年間を見据えた進路指導の実現を目指す。 ・個人面談を適宜行い、個々の生徒の進路目標を確実に把握し、その実現に活かす。	A		・3年間を見据えた高い進路意識を持たせるため、進路ガイダンスや進路HRをさらに充実させる。 ・「キャリア・パスポート」を効果的に使用し、進路意識のさらなる向上を目指す。 ・生徒の進路目標の把握が確実となるように、各学期に面談週間等を設けるなどの手段を講じる。
	公平、公正な進路保障の実現	・公共職業安定所や嘉飯桂地区進路保障協議会との情報交換や不適正選考への対応を密にし、公正な進路保障への取組を徹底する。 ・生徒自身が公平、公正な進路保障を享受できるよう、人権・同和教育授業等で公正な採用選考等について具体的に生徒へ周知する。	A	B	・本年度同様、職業安定所や協議会での情報を確実に周知する。 ・不適切な質問に対して適切に対応・回答できるよう指導を徹底する。
	差別やいじめを許さない人権意識の涵養	・差別やいじめについての知的理解の促進と、全ての教育活動を通じて多様な人権を尊重する雰囲気を作り出す。	A		・人権・同和教育授業を中心に、全教育活動を通じて適切な人権教育を引き続き実施する。
	教職員の人権意識の高揚	・教職員に対する年間3回以上の研修内容や情報提供を充実させ、教職員の人権意識を生徒に還元する体制づくりを強化する。	B		・本校の人権課題や生徒の実態に即した校内研修、嘉飯桂地区の人権・同和教育の研修会を行い、職員の人権意識を高めることができた。来年度は生徒に対して「アンガーマネジメント」に関する研修を行いたい。
第1学年	中学生から嘉穂総合高校生になるという強い自覚の育成と基本的生活習慣の定着	・中学生から嘉穂総合高校生になるという自覚を持たせ、高校生としての当たり前を当たり前にできるように育成する。	A		・1年次に身に付けなければならないポイントについては学年の教員が一体となって指導でき、一定の成果を感じる。次年度は、「言われなくてもできる」という状況にステップアップさせていきたい。
		・日頃より生徒を観察し、保護者と密に連絡を取ることで、出席率平均98%以上、1年間の出席皆勤率を50%以上を目指す。	B		・新型コロナウイルス感染症の影響がまだ継続し、出席率は96.8%と目標の数値に届かなかった。次年度は、進路意識を高められるような取り組みをし、生徒に学校を欠席しないことの大切さを浸透させたい。
	「学習に取り組む姿勢」の育成及び「豊かな心」の涵養	・学習環境の整理を徹底させ、1時間1時間の授業に主体的に取り組む生徒を育成する。	A		・朝礼時に学年統一で、①服装の確認、②机上・廊下側の棚に何も置かない、③鞆を右にかける、という3つの徹底を継続して行うことができた。次年度は、毎時間の授業にもっとつながっていくようにしたい。
		・各教科担当者・担任・保護者間の連携を密にし、生徒の学習状況の把握に努め学力定着に努める。	B	B	・担任及び学年の先生方とコミュニケーションを密にし、学校・生徒・保護者の連携を図ることができた。次年度は、生徒の学力の定着に向けて、新たな取り組みも検討していきたいと感じている。
		・朝読書を導入することにより、落ち着いた学校生活のスタートを切らせるとともに豊かな心の涵養を図る。	A		・朝読書については、生徒にアンケートを取ったところ、90%以上がよい取り組みだと答えていた。今後、インプットした知識などをどのようにアウトプットに結び付けていくのかということが課題である。
	キャリア教育の充実	・進路指導部と連携し、自らの進路について考え、調べる活動を通して、高校卒業後の進路・将来の夢について深く考えさせる。	B		・進路指導部と連携し、進路を考える機会を設けることができた。次年度は生徒が自分の進路について真剣に考えるよう工夫していきたい。
・進路実現へ向けて、部活動や学校行事、各種委員会などに積極的に参加することの意義を伝え、将来に向けた有意義な時間を過ごさせる。		B		・部活動や学校行事に積極的に取り組む姿が多く見られた。次年度は創立20周年を迎える本校の中核となり、よりよい学校をつくっていく組織に育て、生徒一人一人の充実した学校生活に結び付けていきたい。	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会委員からの意見
A	<p>自分の将来について考えさせることは、生徒にとって役立つと思う。</p> <p>進路実績の経年変化を分析し、課題と改善策を示せるとよい。</p> <p>生徒の思いに寄り添った進路指導を継続してほしい。</p> <p>桂川町においても人権啓発週間を設けている。学校と行政が連携して人権意識の高揚に結び付けていきたい。</p>
B	<p>現在、社会の変化が著しい。10年後の社会に対応できる学力を生徒に身につけてほしい。</p>

第2学年	学校生活を基本として、各学科の専門性を高め、社会の構成員としての資質と能力を持った生徒の育成。	保護者との連携による、基本的な生活習慣の確立と出席状況の改善。	B	B	・毎朝の遅刻、授業の遅刻、途中退室などを減少させるために生徒の意識改革を図る。保護者とより連携をはかっていく。	B	将来の具体的な進路目標を持たせる指導をお願いしたい。				
		・専門性向上を目指した、各学科における資格試験の積極的な実施。	A		・各科の先生方から必要な補習授業を実施していただいている。より高いレベルの資格取得につなげていきたい。 ・進学に向けた、英検等の受験も推奨していきたい。						
		・生徒個々の能力に応じた指導方法を検討する。教育相談等を充実する。	A		・個別の教育相談やSC,SSWによる面談を実施し、授業や学校生活での困り感について情報の共有に努めている。今後も必要に応じて実施していく。						
	人権感覚に優れ、高い規範意識を持ち、公共のマナーを考える責任ある言動をとることができる生徒の育成。	・教育活動全体を通じて、道徳教育の推進に務め、生徒の人権意識を涵養する。	B		B			・人権学習やSEL-8Cを通じて、生徒の人権感覚、他者を尊重する態度、社会性の育成を図っていく。 ・HRや授業などを通じて規範意識や公共マナーを高めたい。			
		・校内外の活動を通じて、挨拶や返事ができる生徒を育成するとともに、他者への気遣いや他者を尊重する態度を育成する。	B					・規範意識育成学習や各授業を通して情報モラルの育成に努めていきたい。			
		・ICTを活用した学習活動を通して、情報モラルや情報リテラシーを育成する。	B					・就職、進学に関する校内外でのガイダンスを実施し、生徒の進路意識高揚と進路実現につなげていきたい。			
	進路実現のために、自身の課題を発見し解決に向けて、主体的に考え行動に移すことができる生徒の育成。	・進路ガイダンスや校外での活動を通じて、視野を広げさせ将来像を描かせる。	A		B			・就職、進学に関する校内外でのガイダンスを実施し、生徒の進路意識高揚と進路実現につなげていきたい。			
		・学校行事等を活用し、生徒が社会の一員として主体的に活動できる態度を育成する。	B					・体育祭や総文祭において、生徒の活発な活動がみられた。しかし、一部の生徒に頼りすぎている部分もある。最高学年の生徒として自ら行動を起こし高い目標に挑戦するよう指導していきたい。			
		・生徒の課題発見能力・解決能力を育成に向けて、指導方法の検証と改善を実施する。	B								
	第3学年	基本的な生活習慣の定着	・自己管理の重要性を理解させ、体調等の「調整力」を身に付けさせる。		B			B	・学校行事後の遅刻・欠席者が目立った。学年全体での取組や工夫が必要であった。	B	就職率や進学率について経年比較をしていただきたい。
			・最上級学年という自覚を持ち、ふさわしい挨拶や身だしなみができるようにする。		B				・一部の生徒の身だしなみの違反をなくすることができなかった。学年として組織的に動くべきであった。		
			・身の回りの整理・清掃を徹底することで、奉仕の精神を養うとともに、精神の安定を図る。		B				・整然とした環境を維持することで教室環境を美しく保つことができた。 ロッカーを増やしたことで生徒の持ち物の整理が進んだ。		
学習意欲の向上、学習活動に向かう態度の育成		・普段の授業を重視させ、生徒が主体的に授業に参加する態度を育成する。	B	B	・授業態度等に関しては、その都度、個別に対応し指導することを継続したい。						
		・各教科担当者との連絡を密に行い、生徒の学習状況の把握に努め、学力向上を目指す。	B		・多くの生徒は机上整理ができていたように感じる。						
		・机上の整理を心掛けさせ、学習に取り組む態度を向上し、基礎学力の定着を図る。	B		・進路指導部との連携を密にし、生徒への進路スケジュールの伝達を的確に行う必要があった。次年度の反省に活かしたい。						
キャリア教育を通して将来に向けた規範意識の高揚		・進路ガイダンス等の体験を通して、「自ら調べ、自ら考える」精神を養い、進路実現に向け深く考えさせる。	B	A	・体育祭等の行事をとおして生徒の成長が見られた。指示待ちの姿勢ではなく、自ら行動できる生徒を増やしたい。与えられた役割を最後まで責任を持ってやり遂げる力を育成することが重要である。						
		・リーダーを中心に、各行事の運営や、集合・点呼及び進行などを積極的に行わせ、思考力・判断力・表現力の育成に努める。	A		・学年全体で言葉の持つ意味や影響を考えさせたことで、生徒が慎重な発言を心がけるようになった。						
		・講演会、学校行事を通して人権意識の高揚を図る。個人面談や学校生活アンケートを確実に実施し、いじめゼロを目指す。	B		・担任の緻密な進路指導のおかげで、オープンキャンパス及び職場見学は積極的に行われた。継続して実施したい。						
		・応募前職場見学やオープンキャンパスへの参加を促し、進学先・就職先とのミスマッチを防ぎ、早期離職者・退学者の減少につなげる。	B								

普通科 総合コース	学習規律の徹底と基本的な生活習慣の定着(「総合的な探究の時間」の充実を含む)	・学習規律を守ることを徹底し、授業に集中できる環境を整えるとともに、生徒の規範意識を高めていく。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を活用し、進路実現につながる指導をめざしていきたい。 ・基本的な生活習慣の定着について継続的に指導し、落ち着いた学習できる態度や学力向上につなげていきたい。
		・「総合的な探究の時間」を活用して、基本的な生活習慣の定着の必要性や進路実現に向けての情報収集や学習を行う。	B		
	ビジネス類型における教育活動の充実	・他学科と連携して、ふるさと納税返礼品事業を行うことで教育活動の更なる充実を図る。また、その取り組みを通じて地域に本校の教育活動を地域の方々に知ってもらおう。	A		
		・放課後等を利用して補習を行い、日商簿記や全商1級合格を目指すなど資格取得実績の向上を図る。	B		
	ライフデザイン類型における教育活動の充実	・外部講師等の指導を取り入れながら、創作活動への関心を高め製作技術の向上を図る。	A		
		・被服製作、食物調理技術検定の合格8割を目指す。	A		
・地域における作品発表会を行い、取組の成果を発信することで本校教育活動への理解を広める。		A			

A	ふるさと納税返礼品事業をとおして、嘉穂総合高校と地域との相乗効果が生まれるとよい。
B	<p>野菜やジャムなどの物産販売を桂川町で行ってもらい、町民にも好評である。</p> <p>地域と学校が連携し、winwinの関係になることが望ましい。</p> <p>桂川町にとって、小学生と嘉穂総合高校生との交流は貴重な体験となる。今後も継続していただきたい。</p> <p>総文祭の農業食品科の展示において「おこし」を試食させていただいた。とても美味しかった。商品化等でできればよい。</p>

工業科	学科の特性を活かしたカリキュラムによる資格・検定の実績向上	・資格取得に対する指導体制の確立を図り、効率的な指導法を取り入れる。	B	・資格取得に向けた補習等によって成果が上がった。さらに、効果的かつ効率的な指導方法を工夫する。		
		・電気工事士、アーク溶接、ガス溶接等、社会で役立つ資格取得を目指す。	A	・電気工事士、溶接等社会で役立つ資格を取得させることができた。取組を継続していきたい。		
		・ICTを積極的に活用することで、作業の効率化を図るとともに、生徒のICTリテラシーを高める。	B	・ICTを積極的に活用することで、生徒のICTリテラシーを高めることができた。必要に応じた活用を心がけたい。		
	実習環境の整備と安全教育の充実	・実習環境を整備し、系統的かつ効率的な実習体制を確立する。	B	・実習環境は整いつつある。それらを使いこなせるよう個々の職員に合わせた研修を実施したい。		
		・環境整備を通して、安全教育・危険防止教育の徹底を図り、安全意識を向上させる。	B	B	・引き続き安全教育の徹底を図り、安全意識向上を目指す。	
		・高い環境保全意識を持つ人材、整理整頓ができる人材の育成を目指す。	B	・引き続き環境教育の徹底を図り、自然環境や資源を大切にエンジニアを育てる。		
	教育活動における質の向上とものづくり意識の向上	・学科内・学科間で情報を共有することで、生徒の適性に合わせた指導を行う。	B	・学科会議を開催しやすい体制を整えるとともに、学科間の連絡を密にしたい。		
		・職員の技能向上研修を実施することにより、職員の技術・技能向上を図り、生徒を技術・技能で指導していく実力をつける。	B	・職員の技術、技能向上のため、校外研修会等に参加しやすい体制を整えたい。		
		・全国高等学校総合体育大会北部九州大会に係るカウントダウンボード製作等、地域や社会に貢献できるものづくりを行なう。	A	・全国高等学校総合体育大会北部九州大会を盛り上げるため、責任をもってカウントダウンボードのメンテナンスを行う。		
	情報科	新教育課程への対応と専門性を向上させる指導改善	・プログラミングが単なる作業にならないよう、明確な目標を生徒と共有し、基礎力の定着と応用力の向上につながる動的な授業を行う。	B	<p>・1年生の授業において、本格的なプログラミング言語を使った授業を実施した。習熟度に差が出つあるため、授業方法を工夫する。</p> <p>・情報実習の内容は課題研究につながる内容で指導できた。科目間での連携などを見直して、より改善を加えていきたい。</p> <p>・3年生の情報実習では、高度な内容をどのように指導していくか検討して実施していきたい。</p>	
			・課題研究のテーマ設定につながるよう、情報科目内での指導内容や実習内容の最適化を図る。	A		
			・資格取得および専攻に沿った授業を基礎にしつつ、情報実習などの新科目を弾力的に運用し、学科の特色および専門性の向上を図る。	A		
情報エンジニア・クリエイター人材の育成		・ネットワークや情報システムに関する授業の在り方を見直し、進学先や就職先で求められるIT技術者としての資質や能力を育成する授業を実施する。	A	A		・将来性を考えた授業を実施できた。一方で少し内容が難解だと感じる生徒も多いため、教材を工夫して生徒をフォローできる体制を各科目で目指す。
		・マルチメディア系の授業を通して、情報の表現や意義(相手/目的達成のためのデザイン)を軸とした表現方法や技術を身に付けさせる授業を実施する。	A			・課題研究のテーマ設定では、最新の情報技術に沿ったテーマ設定の指導を徹底したい。
		・最新の情報機器への理解を深め、生徒一人一人の能力を最大限に引き出せるような課題研究テーマの設定および指導の充実を図る。	B			
IT業界への進路を見据えた教育活動の充実		・最新の情報技術や情報教育に関する情報を教員間で共有する機会を増やす。	B	B		<p>・学科内で情報共有するための会議を計画的に行う。</p> <p>・外部との交流事業や取得を目指す資格について引き続き検討していきたい。</p>
		・情報技術者や上級学校生との交流などを通して、IT産業や上級学校等の開発・研究分野について学ぶ機会を増やす。	B			
		・授業やカリキュラムを参照し、受験できる資格の検討を行う。	B			

B	産学連携をさらに発展させ、地域振興に役立ててほしい。
	課題研究発表会での発表は専門性が高く、興味深かった。
A	小・中学校にも一人一台端末タブレットが導入されている。一人一台端末タブレットの活用方法について小・中学校教員と情報共有できるとよい。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 1 「学び直し」による基礎学力の定着及び指導と評価の一体化による授業改善
- 2 生徒の自己有用感を高める発達支持的生徒指導及び教育相談体制の充実
- 3 インターンシップ及び「SEL-8C」等の充実による系統的キャリア教育の実施
- 4 学科間連携の推進及び更に地域に開かれた学校づくり
- 5 SNS及び学校HP等を効果的に活用した広報活動による全学科での志願倍率向上

評価項目以外のものに関する意見

総文祭(文化祭)において「しめ縄づくり」の体験コーナーがあった。伝統技術の継承として貴重である。若い世代に日本の伝統技術を伝承してほしい。